

「数学的な見方・考え方」を働かせる児童の育成
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して～

広島市立井口台小学校

1 はじめに

(1) 問題の所在

令和6年度全国学力・学習状況調査では、全国と前任校(広島市立楽々園小学校)を比較して、A「数と計算」1(1)問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均より低かった。この領域において、児童が数学的な見方・考え方を十分に働かせることができているとは言い難い。

(2) 本研究で目指す児童像

本研究で目指す児童は「数学的な見方・考え方」を働かせることができる児童である。本研究における「数学的な見方・考え方」とは、「問題場面の数量の関係に着目し、加法と減法の相互関係を考えることができる」とする。

2 研究仮説

スライド形式の写真を用いて問題場면을提示し、班で話し合いながらテープ図を操作させる手立てを講じれば、児童は問題場面の「数量の関係」に着目し、問題場면을数学的に捉え、加法と減法の相互関係を考えることができるだろう。

3 研究の内容

前任校(広島市立楽々園小学校)で、以下のような授業実践を行った。

単元 : 第2学年 たし算とひき算「図をつかって考えよう」

本時の目標 : 加法の逆の減法(未知数が先に出てくる)の問題解決を通して、加法と減法の相互関係について理解することができる。【知識・技能】

手立て1 : 問題場面の提示の仕方について、実際の教室や児童の写真を用いて、スライド形式で提示する工夫を行う。

手立て2 : テープ図が表す部分や全体が何にあたるかについて、班でホワイトボードを用いて話し合う活動を設定する。

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 問題提示の仕方を工夫することによって、児童一人一人が場면을想像しやすくなり、問題解決に積極的に取り組んだ。
- ② 単元を通して、班でホワイトボードを用いてテープ図の操作活動を行うことによって、「数学的な見方・考え方」を働かせる姿が見られた。

(2) 課題と今後の展望

単元後の確認テストの正答率が88%となったが、誤答した12%の児童に対してどのような手立てを行っていくかが課題である。また、これからの授業でどのように準備の時間を取り入れ、取り組んでいくかも考える必要がある。そして、表現様式の変換を意識して、図や式・場面の行き来を積み重ねることを意識していきたい。